

「広島大学大学院統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター報告」  
投稿のためのガイドライン

(平成24年4月27日センター報告編集委員会承認)

(令和2年5月13日改正)

1. 本要領は、「広島大学大学院統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター報告」(以下、『「センター報告」』という。)への投稿・執筆・編集に関する基本事項を定める。
2. 「センター報告」は、広島大学大学院統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター(以下、「センター」という。)の教育研究活動、地域啓発活動などに関わる成果を公表することを目的とする。
3. 「センター報告」の編集は、センター報告編集委員会(以下、「編集委員会」という。)が担当する。
4. 掲載された論文の著作権は、センターに帰属する。
5. 原稿投稿の資格を有する者は、次のとおりとする。
  - (1) 広島大学生物生産学部及び大学院統合生命科学研究科の教職員、学生、研究生  
大学院生物圏科学研究科の学生
  - (2) センターの運営委員会委員、客員研究員及び研究員
  - (3) センターを利用して教育研究活動を行い、その成果を公表する者
  - (4) その他、センター長が投稿者としてふさわしいと認めた者
6. 原稿の種類、長さ、書き方、提出方法等は、別途「投稿のためのガイドライン」及び「執筆要領」に定める。
7. 投稿は、原稿をWordで作成して投稿申込書に必要事項を記入の上、期日までに編集委員会宛に添付ファイルとして送付するものとする。

送付先：〒739-0046 東広島市鏡山2丁目2965番地  
広島大学大学院統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター  
西条ステーション(農場)センター報告編集委員会(谷田 創)  
Tel: 082-424-7974 Fax: 082-424-7974 e-mail: htanida@hiroshima-u.ac.jp
8. 査読を希望した場合、投稿された原稿(原著論文、総説、短報に限る)は、原則2名の査読者の意見に基づいて編集委員会が掲載の可否を決定する。
9. 投稿料については無料とする。
10. 受理された論文の原稿については、本文はWordなど、図表はPowerpoint, Excelなどを使用して作成し、編集委員会に添付で提出する。
11. 受理された論文などは原則、センターのホームページにpdfファイルとして掲載し、オープンアクセスとする。

1. 原稿の種類

原著論文，総説，短報，報告，資料，書評など。なお，原著論文，総説及び短報については査読付きあるいは査読なしを選択すること。

2. 原稿の長さ

制限しない。ただし，編集委員が内容，長さについては助言をする。

3. 原稿の校正

原則として，著者校は初校のみとし，その後の校正は編集委員会が行う。

4. 掲載原稿の返却

原則として著者に返却しない。

5. 原稿の体裁

5-1. 原著論文，総説，短報

(1) 英文，和文ともにWord用いてA4横書き，ダブルスペースで作成すること。上下左右に2 cmの余白を設けること。ページ番号を余白下に通し番号で記入すること。

(2) 最初のページに，日本語タイトル，英語タイトル，著者氏名（日本語），著者氏名（英語），所属（日本語），所属（英語），ランニングタイトル（日本語）を記入。著者が複数の場合には右肩に番号（1，2…）をつけて所属を省略せずに著者名の下に記入する。

(3) 次ページに和文と英文の要旨（ABSTRACT）を記入する（和文は400字，英文は250語以内）。要旨の下にキーワード（KEY WORDS）をアルファベット順に5つほど記入。なお，英文の要旨は受理後に編集委員会で文法的な校閲を行う（無料）。

(4) 3ページ以降に緒言（INTRODUCTION），材料と方法（MATERIALS AND METHODS），結果（RESULTS），考察（DISCUSSION），引用文献（REFERENCES），謝辞（ACKNOWLEDGEMENTS），図表の説明（LEGENDS），表（TABLE），図（FIGURE）の順で並べる。

(5) 学名はイタリック体で，初出時には命名者，年号も付すこと。度量衡の単位はSI単位系を用いること。数式は前後一行空けてイタリック体で記述する。

(6) 図表は縮小して印刷した場合でも鮮明に見えるようにサイズを工夫すること。図表の右下には通し番号と筆頭著者名を記述する。図，表を本文に引用する時には Fig. 1, Figs 1, 2, 図 1, Table 1, 表 1 などとして引用し，挿入箇所は Word のコメント機能で指示する。図を他の文献から引用する場合には著作権者から許可を得て転載すること。作成に関しては Powerpoint, Excel などが望ましい。

(7) 本文での引用は以下のようにする。複数の文献を括弧書きで記述する場合には年代の古い順に並べる。

鈴木（1981, 1982a, b），鈴木・佐藤（1988），鈴木ほか（1981），Smith（1962, 1969a, b），Smith & Clark（1969），Smith *et al.*（1962），（Smith, 1962；鈴木ら，1981）

(8) 引用文献は以下のように表記する。アルファベット順，年代の古い順に並べる。雑誌名は省略しない。

前田照夫（2009）：クローン牛，肉やミルクは安全か？ 化学と生物，47: 217-221。（和文雑誌の例）

Fujikawa, Y., Uematsu, K., Iijima, N. (2009): cDNA cloning and expression of a novel group IB phospholipase A2 in the intestine of the red sea bream *Pagrus (Chrysophrys) major*. *Fisheries Science*, 75: 453-461.（英文雑誌の例）

西村三郎（1981）：地球の海と生命。海洋生物地理学序説。海鳴社，東京，284 pp.（和文単行本の例）

Nakabo, T. (ed.) (2002): *Fishes of Japan with Pictorial Keys to the Species*. Tokai University Press, Tokyo, 1749 pp. (英文単行本の例)

古村圭子 (2006) : 世界の乳牛の品種. (柏村文一郎・増子孝義・古村圭子編) : 乳牛管理の基礎と応用, デーリィ・ジャパン社, 東京, pp. 26-34. (本の一部の例)

FishBase (2012): *Pagrus major*. <http://www.fishbase.org/summary/Pagrus-major.html>. FishBase Consortium. Retrieved: 26 February 2012. (ウェブサイトの例)

#### 5-2. 報告, 資料, 書評等

- (1) 英文, 和文ともにA4横書き, ダブルスペースで作成すること. 上下左右に2 cmの余白を設けること. ページ番号を余白下に通し番号で記入すること.
- (2) 最初のページに, タイトル, 著者氏名, 所属を記入する. 著者が複数の場合には右肩に番号(1), 2)…)をつけて所属を省略せずに著者名の下に記入する.
- (3) 要旨(ABSTRACT)の記入と本文の体裁は任意とする. 書式や図版については, 5-1の各項に準拠する.